

社会保障こぼれ話

各国の社会保給付費

ILOの新しい資料によれば、各国の社会保障給付費は増大を続けており、1960年から1971年までに、後発グループの各国を含めて、給付費の規模は約2-4倍に増えている。とくに急激な増大を示すのはトルコの約10倍、アイスランドの約9倍、ユーゴスラヴィアの約8倍などである。先発グループの各国では、約2-4倍の膨張が見うけられる。

各国の給付費を国内総生産(GDP)と対比させた数字では、1960年から1971年までに、後発グループで一部の国々で若干の低下が見られるが、その他はほとんど変らないか、あるいは上昇を記録している。とくに、ヨーロッパでは、ギリシャなどの一部を除く各国で上昇が記録され、1971年には、4カ国を除くすべての国々の比率は10%を超えており、15%以上は10カ国になっている。しかも、1971年に、オランダとスウェーデンは給付費その対GDP比が20%に達していた。日本の比率は5.0%で、これとほぼ同一の水準はポルトガル(5.4%)とブラジル(5.1%)である。

多くの国々では、給付費のうち最も大きな部分を占めるのは、社会保険および類似制度で、これと家族手当だけの給付費構成では、先発グループはほぼ40%以上を年金、20%以上を疾病・出産、10%以上を家族手当にそれぞれ支出している。それら先発グループでは、国によって異なるが、これら3部門だけで給付費の90%を超えている。年金制度がまだ未成熟な日本は、疾病・出産が75%、年金が11.6%で、上述した例と異なる形を示している。

(ILO, The Cost of Social Security 1967-1971, Geneva, 1976)

編集後記

今年の冬は寒さは一段ときびしい。日本の豪雪地帯には大量の雪が降り、北海道では例年のない記録的な低温が記録された。アメリカにも、大雪や記録的な低温の異常寒波が襲いかかり、この国も大きな打撃をうけている。日本には北極から吹き出す寒気団が、バイカル湖上空を通過してやって来るし、同様に、アメリカにも、寒気団が北から南下して来る。それらの寒気団は3本足の2つで、3本足の形は、大昔の氷河時代にそっくりだといわれている。そういえば、アメリカで大雪に閉じ込められ、立往生した大型トラックの群の写真は、氷河の舌端にとらえられた犠牲者を思わせる。この地球にまた氷河期がやって来るのだろうか?

(平石)

海外社会保障情報 No. 36

昭和52年1月25日発行

編集兼発行人 社会保障研究所

〒100 東京都千代田区霞が関3-3-4

電話03(580)2511

製作所 和光企画出版株式会社03(564)0338